

「思考力・判断力」を身につけさせる場の工夫と評価 ～器械運動（鉄棒運動）における実践を通して～

千葉県八千代市立阿蘇中学校 教諭 片波見 昌浩

1 はじめに

今年度から、新学習指導要領が完全実施となった。新学習指導要領の下での学習評価については、生徒の「生きる力」の育成を目指し、生徒一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため、目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施し、生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し、学習指導の改善に生かすことが重要となる。併せて、学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが求められている。

本校では、平成19年度から「学びの協団体」の取り組みを実践し、今年で6年目を迎える。今までに、導入の工夫、教材の開発、発問の工夫など様々なことに取り組んできたが、今回はその取り組みの中から「評価」に関する部分を取り上げて提案したい。

2 研究のねらい

「学びの協団体」の基本的な考え方は、「生徒一人一人の学びを保障する。そしてすべての生徒が授業に参加できる。」ということである。そのための手段として、①教室においては、座席をコの字型にする、②男女市松模様の座席にする、③男女各2名、計4名のグループ活動を取り入れる、④分からないことは「教えて」と訊けるようにする、⑤訊かれた生徒はわかりやすく説明する等の約束事を全教科で取り入れている。保健体育科においてもその約束事を取り入れた授業を展開している。

ここでは、新学習指導要領の趣旨を生かした学習計画を立て、学習方法や評価カード、思考力・判断力を付けさせる場の工夫をすることにより、信頼性と妥当性を持った評価ができることを実践を通して明らかにしていきたい。

3 生徒の実態

事前のアンケート結果から、男女合わせて80%以上の生徒が「体育が好き」と回答している。種目については、男女ともに50パーセント以上の生徒が「球技が好き」と回答している。しかし、器械運動に関しては、「嫌いな種目」の1位として40パーセントの生徒が回答している。器械運動の4つの運動（マット運動、鉄棒運動、平均台運動、跳び箱運動）では、「好きな種目」が、マット運動、「嫌いな種目」が鉄棒運動となっている。その理由として、「苦手」・「痛い」というものもあったが、「難しい」・「うまくできない」といった回答も多数あった。このことから、器械運動、とりわけ鉄棒運動に対する苦手意識が高く、すぐに「自分にはできない」、「めんどくさい」などと言った理由で行わなくなってしまう傾向がある。また、自分一人で新しい技の習得しようとする生徒が多く、仲間とお互いの技を見せ合ったり、技の習得に向けた場の工夫を考え、相談し、練習に取り組む生徒が少ない傾向がある。

4 研究の概要

本校の研究主題である「お互いに高めあう『学び』の創造～全職員で学び合い、確かな専門性に支えられた質の高い授業の創造を目指す～」を踏まえ、次の視点を基に研究を進めた。

（1）学習の進め方及び評価規準の提示

年度始めの時間に、全教科、各学年ごとに「見通し学習表」を配布し、各学期で取り扱う授業内容を提示し、計画的に授業が進められるようにする。また評価についても、その項目、着眼点などを明確にし、生徒と教師の共通理解を図る。各単元のはじめには、学習指導要領に基づいた単元の評価規準を明確にし、特に技能に関しては、身につけさせたい技をしっかりと明記することにより、到達度が把握できるのではないかと考えた。

（2）学習カードの工夫

器械運動に関しては、3年間見通すことができる学習カードを作成し、昨年の自分を超えるような取り組みができる工夫をした。また、自己評価だけではなく、他者にアドバイスをした

り、アドバイスしたことにより他者が新しい技ができるようになったという事項も評価につながられるような欄を設けることにより、積極的に他者の演技を観察し、アドバイスができるのではないかと考えた。

(3) 「思考力・判断力」が育つ学習資料の提示

技のポイントが明確になるような学習資料を用意したり、自分たちの演技を動画で撮ってすぐに見せ合うことにより、グループ内での教え合いやアドバイスが活発に行われ、評価がしやすくなるのではないかと考えた。

(4) 指導と評価の計画

実施可能な評価にするために、評価が可能な範囲（1時間に1項目程度）にとどめ、漏れがないような評価計画を作成することにより、より正確な評価ができるとともに、次の指導への資料に活用できるのではないかと考えた。

5 研究の実践（鉄棒運動 2年生 8時間計画）

(1) 学習のねらい（単元目標）

- ① 仲間の演技を認め、分担した役割を果たし、練習をする上で周囲の安全に気ながら練習に取り組むことができる。 （関心・意欲・態度）
- ② 技のポイントを理解し、仲間と協力しながら技にあった練習方法を考えることができる。 （思考・判断）
- ③ 1つ1つの技を大きく美しく行い、それらを組み合わせることができる。 （技能）
- ④ 1つ1つの技のしくみやポイントを説明できる。 （知識・理解）

(2) 学習の道すじ（学習過程）

- <ねらい1> できる技をよりダイナミックに美しくできるようにしよう。
- <ねらい2> もう少しでできそうな技に挑戦し、できるようにしよう。
- <ねらい3> 技を組み合わせるとスムーズに演技できるようにしよう。

(3) 時間配分

過 程 分 時	はじめ	な か						まとめ
	1	2	3	4	5	⑥	7	8
10分	オリエンテーション (学習の進め方・ねらいなど)	準備運動・めあての確認						発表会
20分		<ねらい1>						
30分				<ねらい2>				
40分						<ねらい3>		
50分		整理運動・評価・反省						まとめ及び反省

(4) 評価規準（領域－単元）

	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
単 元 の 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・器械運動の学習に積極的に取り組もうとしている。 ・よい演技を認めようとしている。 ・分担した役割を果たそうとしている。 ・仲間の学習を援助しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習する技の合理的な動き方のポイントを見つけている。 ・課題に応じて、技の習得に適した練習方法を選んでいる。 ・学習した技から、「はじめ－なか－おわり」などの構成に適した技の組み合わせ方を見つけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支持系や懸垂系の技を組み合わせるための滑らかな基本的技、条件を変えた技、発展的な技のいずれかができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・器械運動の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。 ・技の名称や行い方について学習した具体例を挙げている。 ・器械運動に関連して高まる体力につ

規 準	る。 ・健康、安全に留意している。	・仲間と学習する場面で、仲間の良い動きなどを指摘している。 ・仲間と学習する場面で、学習した安全上の留意点をあてはめている。		いて、学習した具体例を挙げている。
学 習 活 動 評 価 に 規 準	①自己の技ができるようになるために積極的に取り組もうとしている。 ②用具の出し入れ等分担した役割を果たそうとしている。	①それぞれの技の合理的な動きのポイントを見つけている。 ②自分に適した技やできそうな技を選び、練習の場を工夫している。 ③安全に留意して練習を行っている。	①技のポイントをおさええて演技することができる。 ②上がり技→中間技→おり技が一連の流れとして演技することができる。	①鉄棒運動の特性や成り立ちについて言ったり書き出したりしている。 ②技の名称や行い方について学習した具体例をあげている。

(5) 本時の指導 (6/8)

目 標

- (思考・判断) ①それぞれの技の合理的な動きのポイントを見つけている。
②自分に適した技やできそうな技を選び、練習の場を工夫している。
③安全に留意して練習を行っている。

過 程	時 間	学 習 内 容 と 活 動	指 導 ・ 支 援 (○)(※安全面)と 評 価 (●)	用 具 ・ 資 料
は じ め	10 分	1. 集合、挨拶、出欠確認、健康観察、忘れ物調べをする。 2. 全員で準備運動、柔軟体操、補強運動、補助運動を行う。 ・体育館3周・体操・ストレッチ ・補助倒立・馬とび 3. 本時の流れ、学習内容を確認する。 (本時の学習内容) できそうな技に挑戦し、完成度を高め、それを組み合わせて練習する。	○教科係に大きな声で指示を出させる。 ○見学者にも、可能な限り授業に参加するように指示を出す。 ※ケガ人や体調の悪い生徒を把握する。 ○服装や身なりを正し、学習用具がきちんと準備されているか確認する。 ○正しい動作で十分に行わせる。 ※手首、肘、肩等、鉄棒運動で特に使う部位を念入りに行わせる。 ○元気に協力して行わせ、グループ内でコミュニケーションをとらせる。 ○本時の流れをわかりやすく説明する。	学 習 カ ー ド
な か	10 分	4. できそうな技に挑戦する。 (上がり技) ひざかけ上がり け上がり (中間技) 前方支持回転(連続) 後方支持回転(連続) (下り技) 踏み越し下り 棒下振り出し下り 足裏支持棒下振り出し下り 5. 技を組み合わせて練習を行う。 (上がり技) 逆上がり ひざかけ上がり け上がり	○取り組む技に関しては、発表会に向けての演技構成を考えさせる。 ●自分に適した技やできそうな技を選び、練習の場を工夫している。 [思・判-②] ○一つ一つの技が、滑らかに行えるようめあてを持たせる。 ●それぞれの技の合理的な動きのポイントを見つけている。 [思・判-①] ○仲間の補助を積極的に行い、助言を与えるよう呼びかける。 ※練習する時は周囲の状況に目を配らせる。 ●安全に留意して練習を行っている。 [思・判-③] ○「上がり技-中間技-下り技」ので行わせる。 ○発表用の演技を意識して行うよう呼びかける。 ○技と技のつながりがスムーズに行えるようめあてを持たせる。	学 習 カ ー ド 実 技 資 料 集 掲 示 資 料 D V D 学 習 カ ー ド 実 技 資 料 集

	20分	<p>(中間技) 前方支持回転 後方支持回転 (下り技) 踏み越し下り 棒下振り出し下り 足裏支持棒下振り出し下り</p>	<p>●それぞれの技の合理的な動きのポイントを見つけている。 [思・判-①] ○仲間の補助を積極的に行い、助言を与えるよう呼びかける。 ※練習する時は周囲の状況に目を配らせる ●安全に留意して練習を行っている。 [思・判-③]</p>	<p>掲示資料 DVD</p>
まとめ	10分	<p>6. グループ毎に整理運動を行う。 ・ストレッチをする。 7. 本時の反省と次時の予告 ・本時の反省を学習カードに記入する。 8. 整列、健康観察、挨拶、解散 ・元気な声で挨拶する。</p>	<p>○ゆっくり大きな動作で行わせる。 ※全身の筋肉をほぐすとともに、手首等の関節を念入りに行わせる。 ○本時の授業を振り返らせ、真剣に反省させる。(各グループから1名発表) ○次は発表会に向けての練習であることを告げ、めあてを持たせる ○教科係に大きな声で指示を出させる。 ※けが等がなかったか確認する。</p>	<p>学習カード</p>

6 研究のまとめ

(1) 研究の成果

- ① 器械運動のオリエンテーション場面で、評価項目や配分、評価規準を生徒に提示し、教師との共通理解を図る事により、計画的に授業を進めていくことができた。また、生徒もどのような点が評価されるのかを事前に関ることにより、それぞれの評価規準に沿った学習を進めることができた。
- ② 学習カード(技能習得理解表)を3年間見通して使えるものにしたことにより、昨年度の自分自身がどの程度まで技を取得していたのかを把握しやすく、すぐに取りかかることができた。また、自分の技の習得だけでなく、友達の技ができるように演技をお互いに見合うことにより、自分自身技の習得にもつながった。(友達へのアドバイスも評価につなげたことが良かったと思われる。)
- ③ 「思考力・判断力」を身に付けさせるために、技のポイントを明記した学習資料の掲示と動画による演技の撮影を意図的に入れたことで、グループ内での活動が活発になり、技の習得率も上がった。また、次の学習課題も明確になり、課題設定→資料の提示→思考・判断→練習→評価→技の習得→次の課題設定、という一連の流れが効果的にできた。
- ④ 事前に評価計画を作成したことは、評価項目が明確になり、生徒の活動をただ観察しているのではなく意図的に見る観点を持って観察する事ができ効果的であった。また、評価をすることが最終目的とならず、次の指導につなげることができたことも良かった。

(2) 今後の課題

- ① 生徒の「思考力・判断力」を付けると共に、意欲的に技の習得に取り組めるためにも、なるべく多くの場を設定できるような工夫が必要である。また、そのための学習資料の工夫も必要であると考えられる。
- ② 指導・評価計画については、毎年生徒の実態を捉えて見直していく必要があると思われる。やはり1時間の授業で、生徒にどのような力を付けたいのかを明確にし、そのための手立てを施し、「できた」「できない」だけの評価だけではなく、その過程も大切に評価を行い、次の時間の指導に生かしていく。この一連の流れが大切になってくると思う。
- ③ 同じ課題を持ったグループが、どのような方法で練習をすればより効果的に技を習得できるか考え、意見を出し合う、技のポイントがよく分からない時に仲間に訊ける、訊かれた仲間はわかりやすく説明してあげる、といった人間関係の構築がよりよい授業を展開するためにも必要となってくる。

今後、「学習指導要領に基づいた指導計画」、「信頼性と妥当性のある評価」、「効果的・効率的な評価」、「指導と評価の一体化」を目指した授業を展開していきたい。